

「薬局」2025 年 5 月号 正誤表

いつも小誌『薬局』をご愛顧いただき誠にありがとうございます。2025 年 5 月 Vol.76 No.6 連載：薬剤師力の「型」に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともにここに訂正いたします。

■ p.124 連載：薬剤師力の型

「肆拾壱ノ型 効果および安全性、価格が最適な薬剤を提案せよ！」

上から 3 行目～24 行目まで

【正】

薬剤師 B：ピタバスタチンより安価なアトルバスタチンを選択したんだね、いいと思うよ。けれど、アトルバスタチンとアムロジピンは同じ代謝経路じゃなかったかな？

薬剤師 A：えっと……。そうですね、そうするとピタバスタチンにしたほうがいいでしょうか。

薬剤師 B：いい選択だね。CYP3A4 は多くの薬剤が代謝される酵素だよね。今回のアトルバスタチンとアムロジピンのように、同じ CYP3A4 で代謝される薬剤すべてが相互作用を起こすわけではなく、CYP3A4 の阻害作用のある薬剤と基質薬を併用した場合にのみ相互作用が起こるけれど、その、今後起こりうる相互作用リスクを可能な限り避けた薬剤にしたいね。CYP3A4 で代謝される薬剤はアムロジピンやクラリスロマイシンなどが該当するし、アゾール系抗真菌薬も含まれるから、今は処方されていなくても、患者さんの今後の生活で併用される確率が高くなるよね。

薬剤師 A：確かにそうですね、ピタバスタチンでいこうと思います。

上記をまとめ、薬剤師 A は再びカンファレンスに参加した。

薬剤師 A：この患者さんの下剤変更について最終的な確認をしたいです。アミティーザ[®]を酸化マグネシウムへ変更する予定でしたが、課題が出ます。酸化マグネシウムとロスバスタチンの併用によってロスバスタチンの効果を減弱させてしまう可能性があります。そのため、ここはピタバスタチンへ変更したいと考えています。

医師 D：スタチンも変更しないといけないんだね。アトルバスタチンにするとどうなりますか？

薬剤師 A：アトルバスタチンも検討したのですが、患者さんはアムロジピンも服用されています。これらの薬の代謝経路は CYP3A4 です。この代謝酵素はクラリスロマイシンやアゾール系真菌薬とも相性が悪いため、今後これらを併用するリスクも考慮してピタバスタチンがよいと判断しました。

【誤】

薬剤師B：ピタバスタチンより安価なアトルバスタチンを選択したんだね、いいと思うよ。けれど、アトルバスタチンとアムロジピンは同じ代謝経路じゃなかったかな？

薬剤師A：えっと……。そうですね、併用注意薬剤になっていますね。そうするとピタバスタチンにしたほうがいいでしょうか。

薬剤師B：いい選択だね。CYP3A4は多くの薬剤が代謝される酵素だよね。アムロジピンやクラリスロマイシンなどが該当するし、アゾール系抗真菌薬も含まれるから、今は処方されていなくても、患者さんの今後の生活で併用される確率が高くなるよね。

薬剤師A：確かにそうですね、ピタバスタチンでいこうと思います。

上記をまとめ、薬剤師Aは再びカンファレンスに参加した。

薬剤師A：この患者さんの下剤変更について最終的な確認をしたいです。アミティーザ®を酸化マグネシウムへ変更する予定でしたが、課題が出ます。酸化マグネシウムとロスバスタチンの併用によってロスバスタチンの効果を減弱させてしまう可能性があります。そのため、ここはピタバスタチンへ変更したいと考えています。

医師D：スタチンも変更しないといけないんだね。アトルバスタチンにするとどうなりますか？

薬剤師A：アトルバスタチンも検討したのですが、患者さんはアムロジピンも服用されています。これらの薬の代謝は同じCYP3A4で行われており、併用注意に該当しています。また、この代謝酵素はクラリスロマイシンやアゾール系真菌薬とも相性が悪いため、今後これらを併用するリスクも考慮してピタバスタチンがよいと判断しました。